

2016年
12月9日
NO 5号

全国OB会ニュース

日本貨物鉄道労働組合
全国OB会
発行人 藤原博之
編集人 竹之内義方

安心の介護保険制度の確立と介護人材の

処遇改善実現を求める 11・11市民集会！！

連合は11月11日の介護の日に合わせて、「安心の介護保険制度の確立と介護人材の処遇改善実現を求める11・11市民集会」を東京・日本消防会館ホールで開催しました。

全国から507名が参加し、JR貨物労組OB会から3名が参加しました。



主催者を代表して、逢見直人連合事務局長は「誰もが安心して住み慣れた町で暮らし、家族が介護と仕事を両立できる介護保険制度をつくる必要がある。本集会にて介護サービスの利用者、担い手である労働者が一丸となり、引き続き取り組みを進めていく」と決意を述べました。

続いて「高齢社会をよくする女性の会」代表の樋口恵子さんが基調報告を行いました。

「介護保険制度は、高齢になっても住み慣れた町で安心して暮らし続けられ、また介護をしながら働き続けられる社会のために、欠かせないものです。ところが安倍政権は介護サービスの対象を狭め、利用者の負担を引き上げようとしています。一方、介護職の人手不足は深刻な状況が続いています。抜本的な処遇改善を実現しなければ、今後ますます増加する介護の需要に対応することはできません。軽度者へのサービスの切り下げや生活援助が利用できなくなるような見直しに反対し、さらなる処遇改善を求めます。」

続いて、介護サービス利用者の代表の報告がありました。その後、**高齢者代表の阿部保吉日本退職者連合会長は「全ての人を対象とする普遍的な制度へと発展させていく必要がある」と強く求めました。**

その後集会アピール採択し最後に、会場の参加者全員で、安心の介護保険制度の確立と介護人材の処遇改善実現を求める、ガンバロー三唱を行い集会を終了しました。